

高速横浜環状南線

—横浜市南部地域猛禽類調査検討会の中間とりまとめ—

記者発表資料

高速横浜環状南線(以下、「横環南」)は、横浜市金沢区釜利谷町から同市戸塚区汲沢町までの延長約9kmの自動車専用道路であり、横浜市中心部に集中する交通を分散し、市内の慢性的な交通渋滞を緩和することを目的に計画されている横浜環状道路の一部で、平成7年に都市計画決定されました。また、首都圏中央連絡自動車道にも位置付けられています。

横環南は平成12年3月に供用中の横浜横須賀道路釜利谷JCT内の工事用道路工事などに着手したところであり、今後の本格的な工事に向け事業者としてより慎重を期すため、「横浜市南部地域猛禽類調査検討会(委員長:柴田敏隆 神奈川県自然保護協会副会長)」を設置しオオタカの生息に関する調査・検討を実施しているところです。

今般これまでの調査結果をとりまとめましたのでその概要についてお知らせします。

平成12年11月16日

建設省横浜国道工事事務所

日本道路公団横浜工事事務所

お問い合わせ先

日本道路公団 横浜工事事務所

工務課長 良峰 透

電話 045-352-3771 (代表)

横浜市南部地域猛禽類調査中間とりまとめの概要

平成12年11月

横浜市南部地域猛禽類調査検討会

1. 高速横浜環状南線の概要

高速横浜環状南線（以下、「横環南」）は、平成7年に都市計画決定され、「かながわ新総合計画21」、「ゆめはま2010プラン」等に位置づけられた重要な幹線道路であり、その整備は、横浜市中心部への交通集中を緩和し、郊外間の連絡を強化することで、市域のバランスある発展を促すとともに、今まで生活道路に進入せざるを得なかった通過交通を減少させ、生活道路の安全を確保します。

また、横環南は首都圏中央連絡自動車道にも位置づけられており、その整備は、横浜・厚木・八王子・つくば・成田・木更津などの中核都市の連絡の強化を図り、一層の都市活動の活性化に大きな役割を果たすものと期待されております。



2. 横浜市南部地域猛禽類調査検討会の概要

1) 概要

環境影響評価及びその後の補足調査の中では、オオタカの生息は確認されませんでした。が、昨年、神奈川県より横浜市南部地域におけるオオタカの生息に関する情報提供があり、事業者として、今後の横環南の本格的な工事に向けより慎重を期すために、平成12年2月から調査を開始し、平成12年8月に「横浜市南部地域猛禽類調査検討会（委員長：柴田敏隆 神奈川県自然保護協会副会長）」を設置して、横浜市南部地域の猛禽類の生息に関する現地調査及び地元の野鳥観察グループに提供して頂いた調査データ等の既存資料による生息・繁殖状況調査等を踏まえ、保全対策の方針について検討を行いました。

検討会名簿（平成12年11月現在）

	氏名	所属
委員長	柴田 敏隆	神奈川県自然保護協会副会長
委員	柳澤 紀夫	(財)日本鳥類保護連盟理事
	川手 隆生	神奈川野生生物研究会事務局長
	稲寺 隆	建設省横浜国道工事事務所長
	遠藤 元一	日本道路公団横浜工事事務所長

2) 検討内容

検討会は2回開催し、その内容は下記のとおりです。

①第1回検討会 平成12年8月7日

・平成12年2月～7月までのオオタカの生息・繁殖状況調査等並びに既存資料の内容について報告するとともに、今後の調査計画等について検討を行いました。

②第2回検討会 平成12年10月13日

平成12年8月・9月の生息状況調査等及び9月の営巣木調査について報告するとともに、2月以降の調査のまとめ及び今後の保全対策の方針、調査の方針について検討しました。

3. 調査の概要

1) 既存資料調査

環境影響評価及びその後の補足調査の結果や既存の文献などから、当該地域における自然環境特性の概要を把握するとともに、地元の野鳥観察グループが実施した平成10年～平成11年におけるオオタカの生息・繁殖状況調査等のデータの提供を受けました。

2) 現地調査

①調査地域

現地調査は横環南が通過する横浜市南部地域を対象として実施しました。

②調査項目及び調査期間

オオタカ的生活サイクルを考慮して、下表に示す調査を実施しました。

現地調査期間

調査項目	調査期間	備 考
生息状況調査	平成12年2月～9月	原則、各月2日間
繁殖状況調査	平成12年4月～6月	原則、毎月2回
食痕調査	平成12年2月～9月	原則、各月1日間
営巣木調査	平成12年9月	巣立ち確認後2回実施

4. 調査結果の概要

1) 周辺環境の概要

横環南が通過する横浜市南部地域は市内でも比較的自然環境がまとまって存在する地域であり、標高100m～200mの山地性丘陵地帯をなしています。植生はコナラ等を主体とする二次林やヤマグワ低木林等が分布しており、スギ・ヒノキ植林がまとまって分布する地域もみられます。

2) 現地調査結果

横浜市南部地域の現地調査で各月ともオオタカの飛翔を確認しております。オオタカの営巣地は1箇所を確認され、繁殖が行われ、3羽の巣立ちを確認しました。また、営巣地と横環南とは相当程度離れており、その間には複数の尾根が存在し、営巣地から横環南及び横浜横須賀道路は見通すことが出来ない地形となっております。

5. 保全対策の方針

確認された営巣地は、横環南から相当程度離れており、かつ、その間には複数の尾根が存在するため、現時点では、供用中の横浜横須賀道路釜利谷JCTに連結する横環南の本格的な工事が、オオタカの生息に与える影響は少ないと考えられます。しかし、その影響をより少なくできるよう、道路と自然環境との調和に十分配慮することが必要との認識に立ち、現時点で考えられる保全対策の方針について検討しました。

その結果、横環南の工事においては、地形の改変を少しでも少なくする工夫、改変部分には郷土種を主体とした植栽、低騒音・低振動型機械の採用等の広く行われている自然環境対策を行うことが、オオタカの生息への影響をより少なくするために有効であると考えられます。

6. まとめ

これまでの調査結果によると、横浜市南部地域で確認されたオオタカの営巣地は1箇所、営巣地は横環南から相当程度離れており、かつ、その間には複数の尾根が存在します。このため、現時点では、横環南の本格的な工事がオオタカの生息に与える影響は少ないと考えられます。

今後は、その影響をより少なくできるよう、道路と自然環境との調和に向けた取り組みを進めてまいります。

なお、引き続きもう1営巣期調査を行い、オオタカの生息状況の把握に努めてまいります。

*オオタカ保護の観点から、飛翔状況・営巣地等に関する情報の公表は、差し控えさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願いします。